

Forest通信 令和6年 1

No.419

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

迎春



新年あけましておめでとうございます。
皆様にはよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は記録的な暑さが続き、地球温暖化防止が叫ばれる中で、さらに森林・林業の役割などに関心が向けられたのではないのでしょうか。今年も高尾山での各種イベントなどを通じて、森林・林業に対する理解を深めていただけるよう職員一同及びボランティア団体等の皆様と共に取り組んでまいります。
本年もよろしくお願いいたします。

令和6年元旦 高尾森林ふれあい推進センター所長 久保 武典

高尾山頂より富士山を望む

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち

シジュウカラ

(シジュウカラ科)

黒いネクタイ模様が特徴の鳥。スズメ位の大きさで、背中の上部にほのかな緑色があり、背は青灰色、喉から腹に黒い帯がある。平地から亜高山までの森林や河原などや、都市公園や市街地でも見られ、木から木へ飛びまわったり、地上に降りたりと、活発に動き回る。

食性は雑食で、昆虫を主に、クモや果実、種子も食べる。鳴き声は多様で、「ツーピーツーピー」などのさえずりのほか、天敵を知らせるためなどに鳴き声を変え、コミュニケーションをしている。繁殖は、若葉が育ち昆虫が多い4～7月に行う。この時期には幼虫などを1日に数百匹も食べると言われる。樹木にとっては有害な幼虫を食べくれるので、森林を支えている鳥の一種だ。

(森林インストラクター 藤原 裕二)



公募イベント つるかご編み体験

12月1日(土)に公募イベント「つるかご編み体験」を開催しました。

つるかご編み体験の目的は、林業の中の作業の1つである「つる取」を知ってもらい、そこから森林の管理などを知るきっかけにしてもらうことです。

せっかく植林し、育った木を枯らしてしまう「つる」…普段は地面から伸びているものに刃を入れてそのまま枯らして土に還すのですが、カゴにするためにそれらをトラックいっぱい集めてきました。

捨ててしまうところを集めて活用する、これもひとつのSDGsの形だと思います。

つるにも種類がいくつかあります。クズ、ヤマフジ、オオツツラ、アケビなどがあります。それぞれに特性があり、用途に合わせたつるを見極めるのが大切です。

参加者は定員いっぱいの20人集まりました。皆さん思い思いのカゴを編みます。初めてカゴを編むという方もとても器用に編んでいました。大体一人2~3個のカゴを編めたと思います。

たくさんの方に体験していただきたいですが、集められるつるの量にも限界があるので人数に制限を設けました。

参加できなかった方々にはご理解とご容赦いただければと思います。(岩)



森林教室

八王子市立 第三小学校

11月28日(火)、八王子市立第三小学校5年生の森林教室を実施しました。

今回は総勢136名と大所帯となったことから、センター庁舎前広場や599ミュージアムの会議室をお借りして、「丸太切り」「火おこし」「森林学習(座学)」に分かれそれぞれのプログラムを交代して体験するよう実施しました。

子供たちは、前日の高尾山登山の疲れからか朝一は若干の疲労感が見えましたが、それぞれのプログラムを体験していくにつれ段々と活気が出てきました。特に火起こし体験では、マッチもライターも使わずに木の摩擦熱のみで着火させることが出来ると、あちこちで歓声が上がっていました。

丸太切りでは、一生懸命頑張ってヒノキの間伐材を輪切りしたり皮を剥いたりしていました。

森林学習では、林野庁の仕事のことや森の動物たちのこと、森林の持つ多様な機能・役割について真剣なまなざしで聞き入っていました。

そして閉会式となった頃には、子供たちの満面の笑みに老体の腰の痛みも忘れるような充実した一日となりました。(瀬)



森林教室

中野区立 中野本郷小学校

12月5日(火)に、中野区立中野本郷小学校5年生40名を対象とした森林教室を実施しました。

当日は、曇り空で気温も低いうえに、インフルエンザ等のため欠席者が多いとのこと、体調を崩す児童がいるのではないかと心配しましたが、参加した児童は皆元気で、午前中の森林観察、午後の森林学習と丸太切りを楽しんでいました。先生から、現在、林業について学習しているとの話を聞き、森林観察をしながら森林や林業について色々質問をしてみると殆ど正解でびっくり。よく勉強していると感じました。特にびっくりしたのが「1年中葉っぱが緑。枝も緑であることから名づけられた木」さて、この木の名前は何でしょうと尋ねたところ「アオキ」と答えた児童がいてびっくりしました。知っていたのかと聞いてみると、「だって、信号機の青は緑なのに青って言うでしょう。だからアオキかなと思った」とのこと。いやいや恐れ入りました。知っていたわけでもなく想像して答えたことに本当に驚かされました。

短い時間での森林教室でしたが、思いのほか多くのことを学んだようで、閉校式では「ここでしか学べないことがたくさんあって楽しかった。今日学んだことをこれからの生活に生かしたい」「学校では味わえない体験ができたし森林が大切だということが分かり、森林を守っていきたいと思った」等々の感想発表があり、スタッフ一同笑顔で、今年最後の森林教室を終えることができました。(谷)



職場体験

江東区立 深川第八中学校

12月13日(水)、江東区立深川第八中学校2年生の生徒2名が当センターで職場体験をしました。当初3名の予定でしたが残念ながら1名の生徒さんが体調不良で欠席となってしまいました。2日間の日程のうち、1日目は江東区にある関東森林管理局東京事務所での講義と隣接する木場公園での測量・測樹の体験、2日目は高尾国宥林の現場での体験という組み合わせで行いました。

現場体験の日は朝から雲一つない快晴。引率の先生も加わりまずはヒノキの間伐を体験してもらいました。職員に教えられながら手順どおり伐倒すると「江東区の中学生で木を伐り倒したことがあるのは僕らだけではないかな」とは生徒の声。伐った木は担ぎ出して午後には輪切りにして家に持ちかえり、木材を身近に感じてもらおうこととしました。

間伐後は、学習の歩道などの危険個所の点検、ゴミ拾い、自然観察を行いながら山頂経由で日影沢キャンプ場まで歩きました。途中、人工林の育成や天然林の管理、境界巡検などの森林官の仕事などについても現地を見ながら説明。最後のあいさつでは「間伐や山歩きは大変だったけど貴重な体験ができた」「森林を育てたり管理したりするのは本当に大変な仕事だということがわかった」「2日間の体験を将来の職業選択の際に活かしたい」などの嬉しい感想が聞かれました。

(枝)



再生可能な燃料「炭」を作ろう！

炭は、化石燃料とは違い、木を育てれば使った分の二酸化炭素は森に戻すことができることから

「再生可能な燃料」として注目されています！！そして炭はとても万能なアイテム！

燃料、消臭、水をおいしくしたり、飾りになったり

でも、普段の私たちは「炭は買う物」……そんなすごい万能アイテムの

「炭」を自分で作る体験をしませんか？



2024

2 / 10 (土)

高尾森林ふれあい推進センター

日影沢キャンプ場奥の

炭焼き小屋 10:00～15:00

応募は **1月22日(月)** まで



作成風景

↓↓ 応募はこちらのサイトから ↓↓

公式ホームページ
主催イベント
詳細情報→



伏せ焼き窯



編集後記

2024年新しい年がスタートしました。

今年も安全第一で森林教室をはじめとした各種イベントに取り組んでまいります。



シモバシラ

Forest通信 NO.419

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail: ks_takao_postmaster@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>



国民の森林・緑を守り